



2018-19年度
国際ロータリーのテーマ
インスピレーション
になろう

国際ロータリー 第2520地区(岩手・宮城) 第6分区 多賀城ロータリークラブ

2018～2019年度
国際ロータリー会長

バリー・ラシン

Barry Rassin
(バハマ・East Nassau RC)



Tagajo Rotary Club

RI club No. 13674
Since 1972.03.25

会長 宮城 順 幹事 引地 辰男

雑誌会報委員会

第2520地区ガバナー

田中 堯史
(盛岡RC)

◇ 事務所/宮城県多賀城市八幡四丁目2-12 イトビル2F

TEL.022-366-4499 FAX.022-366-4548

◇ URL;http://www.tagajo-rc.com Email;info2@tagajo-rc.com

◇ 例会日/木曜日 12:30～

◇ 例会場/ホテル キャッスル プラザ 多賀城
宮城県多賀城市桜木一丁目1-60
TEL.022-367-1111

2019年1月24日(木) 第2255回 今年度第26回例会

会場監督 佐藤仁一郎
開会点鐘 12時30分
ロータリーソング それでこそロータリー
ゲスト・ビジター紹介
塩釜RC 佐浦 弘一様

会長挨拶 宮城 順 会長



連日空気が乾燥して火災が発生しやすい状況になっています。火の元にご注意なさってくださいと先日当社に査察に来た消防署の方のお話でした。

さて、先週に引き続き他団体との連携活動として10年構想実践委員会様と共催している第14回「ゆめ」大会が来月2日に開催の運びとなっています。こちらは火がついています現在担当の青少年奉仕委員会と阿部会長エレクトが取り組んで頂いております。これはどうしても会員各位の参加、協力を頂き市内の小中学生たちの「ゆめ」の発表の場を整えてあげたいと思います。積極的な参加の程お願いします。

先週18日のRLIパートIIに参加の会員の皆さんへお願いします。パートIIでは戦略計画とクラブの分析や会員を引き付ける方法等の皆様の今後のロータリー活動に得る事が多いと思います。お聞きの内容を2月の卓話の機会では是非ご披露お願いしたいと思っております。詳しくはプログラム委員長さんにご相談下さい。

巷ではインフルエンザ猛威を振るっています皆様ご自愛のほど願います。

幹事報告 引地 辰男 幹事

◇ガバナー事務所より

- ・2019年決議審議会 決議案提出方のお願い。
- ・ハンブルグ国際大会 ガバナーナイトのご案内。
- ・ロータリークラブ主催海外研修実態調査アンケートが届いております。
- ・ロータリー・リーダーシップ研究会(RLI)パートIII 開催のご案内

日時:2019年2月24日(日)

会場:仙台迎賓館 斎苑

◇大和ロータリークラブより

- ・2018-19第6分区 合同三役会開催について 日程変更のご案内。

日時:平成31年2月9日(土) 午後6時～

場所:グランダイニング オオサカ

□多賀城市より

- ・寄付金のお礼状を頂きました。

卓話

「昨今の電力エネルギー事情について」

担当:藤田 範生 会員



まずは国のエネルギー政策の概要、業界の現状とその後どうなるかについてお話しさせていただきます。

エネルギー政策は3E+S。「3つのE(エネルギーの安定供給、経済効率性の向上、環境への適合)+S(安全性)」3つのバランスが同じウェイトなのかと言います

と、色んな状況によって傾いているのが現状だと思います。東日本大震災の前は経済性のウェイトが高かったですが、大きな災害が起きると安全性のウェイトが高まります。その時の状況によってバランスさせていくのが基本です。

日本のエネルギー自給率は7%で他の国々と比べると極端に低い。ちなみにフランスは56%。これは原子力を含むということで、原子力も準国産エネルギーという扱いでエネルギー自給率に数字を入れられるんですね。今日本の7%というのは原子力が止まっていますのでこのような数字になっています。原子力が稼働すればもうちょっと上がりますが、それにしても低い数字です。下の方にバッテンが二つ付いていますけれども、これは他国とのエネルギーのパイプラインです。ガスとか油とか。電力ですとネットワークですが、島国ですからこれが繋がっていない。他国は陸続きがほとんどですから。イギリスを見ても島国ですが繋がっています。そういう意味では国際間の連携があると言えます。

経済性、コスト面ですけれど、国が2030年をそれぞれの電源を想定した時に試算したものです。原子力が安く見えますけれども、しっかり稼働できれば原価としてはそこそこ安くできます。後は水力ですとか、火力の中でも石炭とかそういったところが原価としては安くなります。再生可能エネルギーはやはりグリーンだということもあって増やしていこうというのはもちろんなのですが、太陽光はだいぶ普及してきて2030年にはかなりのレベルまで原価が低下していきだろというところですが、これから開発されるであろう風力関係、特に洋上風力などはまだまだコストが下がっていくには時間がかかるだろうと思います。

次は環境面です。CO₂は、化石燃料、石炭、油、ガス、これは効率が良くなってくれば下がってくるのですけれど、再生可能エネルギーや原子力と比べると大きな差があるという状況です。それぞれ一長一短ありということで、どうやって先ほどの3E+Sを実現していくのがエネルギーミックスという選択です。右の方が国として目指す2030年の電源別の割合ということで、基本は省エネなどを十分行った上で出来る限り再生可能エネルギーを増やしていきましょうと言うことです。今CO₂を少しでも下げようと、化石燃料の割合を下げていかなきゃならないと言うことで、今現在化石燃料の割合が8割くらいで、CO₂問題が深刻なのですが、その8割を2030年には56%にまで減らして、その中で増やすのは再生可能エネルギーということで22から24というふうになっています。

次に電力の業界の現状について特徴的なところを紹介させていただきます。

一つ目は電力システム改革というもので、一般の方は耳慣れない言葉です。これは3ステップで進められておりまして、第一ステップで平成27年からすでに行われております。地域ごとに電力会社があって発電して販売しているのですが、地域間の垣根をなくそうと、全国的な電気のやり取りを行う機関を設けましょうとい

うことですでに運用されています。

二点目は電気の小売全面自由化ということで、登録すれば誰でも電気を売れます。これも平成28年から運用されています。

三点目は来年4月からになるのですが、売るのも電気を作るのも自由化されていましたが、皆さんが自由にアクセスできるということになるとネットワークは共有の財産でしよと、ネットワークは発電事業者、小売事業者と同じ業者ではまずいでしよ、独立性誰でも繋げるように会社を分割しなさいということで、来年からは旧電力会社はネットワーク部門を分社化する、子会社化するという事になっています。塩釜営業所も去年から電力センターという耳慣れない看板に付け替えていますけれども、それは分社化に向けてそのような名称に変えています。やる仕事も営業を他の事業所に持って行って機能を分散させたのがこの流れの一環です。

新電力のシェア率を整理したのですが、15%ほどでそれほど多くはないのかもしれませんが、100%だったものがこれくらいまで拡大してきています。小売の事業者数は550社あります。登録制なので誰でもやりたいと思えば登録出来るのですがこれだけのプレイヤーがいると、ただ皆さんが550社全部から買えると言うとそうではなくて、電圧計によって我々は低圧しか売れませんということもありますし、地域を限定しているところもあります。その中での新電力のベスト10ですが、低圧系の特徴がガス会社と携帯電話会社が強いです。そこは元々の基盤があったわけで、うちはガスも電気も売れるんですけど一緒にいかがですか、という感じで増えてきています。また、高圧特高ということで、電圧が高いもの、工場とかビルとかになるのですが、どういった系列が強いのかと言いますと旧電力会社が強いです。あとガス会社ですね。あと商社がこういうところに目をつけて入り込んできているというところで

す。次のキーワードは再生可能エネルギーです。再生可能エネルギーを拡大させるための国の制度がFITです。再生可能エネルギーを事業として、あるいは家庭で太陽光パネルをつけている方もいらっしゃると思いますが、そちらを普及させるために助成金を与えようと。そして国はそれぞれの電源ごとに電力会社がい取ると言うことですが、買取価格を国が決めます。電力会社が一般のお客様に、自分たちが作った電気と一緒に売るわけですけれども、その時に助成金と言われる部分については、一般のご家庭の皆様にお支払いいただいていると、税金みたいなものです。皆さんが再生可能エネルギーの事業所なり、ご家庭の太陽光パネルの設置のためにお金を出して頂いているという構図です。買取価格も皆様から徴収する金額も国が決めますので、その決められた金額に基づいて我々が仲介役という形でお金を集めてお支払いするという、我々は金銭的メリットはありません。その結果、年率26%ということで制度が出来上がってから効果が出ているということです。右側をご覧くださいますと皆さんのご家庭から徴収する金額になるのですが、再生可能

エネルギーは増えれば増えるほど増えるというのが制度上当たり前で、額は今2兆円を超えました。そこら辺の国民負担を減らしていかないと難しいとのことで制度を見直していこうというところです。

次は原子力です。東日本大震災以降、運用の状況が変わってきたところですが、国内には原子力が60基あるわけですけれども、右側の23基が廃炉を決めたところ。女川は去年の暮れ3基あるうちの1号機を廃炉と決めました。2号機の方は新基準に合わせた適合性の審査中です。この審査中のものが記載の通り12基です。再稼働のものは9基ありますが全部西日本側です。東日本側は思うように進んでいないのが現状です。

女川の再起動に向けたスケジュール状況ですけれども、まずは安全対策工事を進めています。こちらは来年度いっぱい終わる予定です。そして今行っている審査が終わると許可を受けるわけなんですけど、できれば今年くらいに許可を頂きたいということで審査対応をしているところです。その許可を受けると使用前検査ということで、再稼働する前に国の検査、試験を受ける必要があります。そしてこれからはずっと必要になるのが地元の理解です。こういったステップを踏んで再稼働に向けて取り組んでいるのが現状です。

最近言われているキーワードがレジリエンスという言葉です。昨年は災害が異常に多い年で、地震台風大雨など各地で大きな災害がありました。電力で一番衝撃的だったのが、北海道の胆振東部大地震で発生したブラックアウトという道内が全停電となったわけですが、これはかなり衝撃的でした。国も電力だけではなく他のインフラの災害時の復旧に向けたレジリエンス(強靱性、復旧力、回復力)をしっかりと進めていかなければならないということで、国の方で議論が行われたということです。なぜブラックアウトが起きたのかと言うと、電力というのは需要と供給のうまくバランスしてないと、周波数がずれてしまいます。周波数がずれると使う側からすれば電気の質が落ちると言うことです。停電が起きてしまったり、工場であれば製品の品質に影響を及ぼす。発電機が急に停止すると周波数が一瞬変化することによって、そういう時に工場や某大学の研究施設で、せっかく継続していた試験のデータが台無しになってしまった、何とかしてくれと賠償請求をされる時もあるんです。品質も非常に今の社会では重視される場所です。

ではそれをどうやって調整しているのか。グラフの上が実際の電力需要のカーブだと思ってください。大体過去の実績から予想して予めパターンをコントロールセンターから指令を出して準備しています。ただ日々の変動などに対応するために、瞬時に秒単位で変動できるような機能も持っています。北海道ではすぐに停止したのではなく、色々とバランスを取るための調整をした結果17秒くらい落ちてしまったという現状です。

最後に今後どうなっていくのかということですが、

当電力会社の成長戦略です。要は中で伸びないのであれば外に出て行きましょうということで、他の地域や海外に出ていく戦略を立てています。一方、国の方は将来どう見ているかということですが、2050年脱炭素化、要は化石燃料をなくしていきましょうという方向に大きな流れとしているところです。脱炭素化とは何なのかということですが、端的に言えば水素化、水素をエネルギーとして使っていこうということで、そういった開発研究が行われております。

サービスは多様化しております。下手すると今後は電気は単なるおまけみたいな感じで、電化製品を買えば電気がついてくるくらいにセット販売が増えてきます。ネットワークは一方向から双方向へ。家庭や職場が全体システムを動かす一体になるのではないかの研究も行われております。後は水素社会になると、我々や製油所などもどうなっていくのかということも個人的に気になる場所でもあります。

スマイルボックス

S・BOX委員会

・卓話させていただきありがとうございます。より一層頑張ります。 藤田会員

・エネルギーの大切な話ありがとうございます。震災の時、長い間停電で電気の大切さがわかり、「灯がほしい」と思い、五木ひろしの歌ではありませんが、ご苦勞様です。 阿部(新)会員

・藤田さん卓話ありがとうございます。

佐山、岩井、鈴木誠、穀田、佐藤(仁)、宮城、引地
芦澤、小向、大熊、安住、佐藤(由)各会員
本日の合計 16,000円

出席率報告

出席委員会

本日第2255回出席率 21/34(-1)名 63.64%
前々回修正出席率 例会休会のためございません

○メイクアップ

1/18(金) ロータリー・リーダーシップ研修会パート2
高井 賢太、嶋原 啓文、鈴木 貴資各会員

次回卓話

○テーマ:「北方四島なぜ占領され、なぜ帰ってこない」
担当: 佐藤 徳子 会員

閉会点鐘

13時30分

文責:雑誌会報委員会 小島 邦道